

会議をペーパーレス化



ペーパーレスに切り替えられた常任理事会

県建設業協会

業務のデジタル化の一環で、県建設業協会は26日の常任理事会から、会議資料をオンライン上で配布するペーパーレスに切り替えた。協会の意思決定の場を導入することで、業界としてさらなるデジタル化を進める考えだ。

この日の常任理事会は前橋市の群馬建設会館と県内12支部をオンラインで結び、出席した幹部らのタブレット端末に会議資料が配布された。会議の進行に応じて資料が切り替わったり、重要な箇所が

表示で強調されたりした。

協会によると、常任理事会では通常、一人当たり35〜50枚程度の資料が配布される。デジタル化は直前に資料を差し替える際は特に効果的だという。冒頭、青柳剛会長は「試行錯誤を繰り返しながらスタートだ」と話した。

業界では情報通信技術（ICT）を活用した工事が進められている。「デジタル化元年」（青柳会長）と位置付け、協会はさまざまな場面で取り組みを加速させていくこととしている。